

シネマをいろいろと病と医療-5

超肥満の母を守って生きる切ない青春

映画・医療ライター 小 守 ケ イ

「僕も他所に行ってみよう」。年に1度、トレーラーで旅する一団が通り抜けるだけのアメリカ中部の田舎町。この町の青年ギルバートは、トレーラーの修理で車列から離れて滞在中の少女ベッキーに会い、自由な生き方に憧れる。

「でも、お袋から離れられないんだ」。すると、ベッキーが「どういう意味?」。ギルバートは「お袋は太り過ぎて、まるで浜に打ち上げられた鯨さ。動けないから側にいてやらなきゃ・・・」と顔を曇らせる。

彼の家族は他に、知的障害児で、眼を離すと高い所に昇ってしまう18歳の弟、それに姉と妹。24歳の彼が、さびれた食料品店に勤めて家族を養っている。

映画「ギルバート・グレイブ」は、母と弟の面倒をみるために自分の夢や希望を抑えて生きるギルバートの青春物語。ベッキーとの淡い恋も町を出てみたい気持も、家族を思うと前には進まない。そんな彼の辛い現実がユーモアも交えた温かい眼で淡々と描かれ、観る者の胸を揺さぶる。

監督は「マイライフ・アズ・ア・ドッグ」が有名なL・ハルストレム。主演は今やスパースターの二俳優で、ギルバートにはJ・デップ（「パイレーツ・オブ・カリビアン」）、弟にはL・ディ

カプリオ（「タイタニック」）。また、身動きできないほど太った哀しい母親には、実際に超肥満なD・ケイツ。彼女の存在がギルバートの重い青春を象徴し、本作に圧倒的な説得力を与えている。

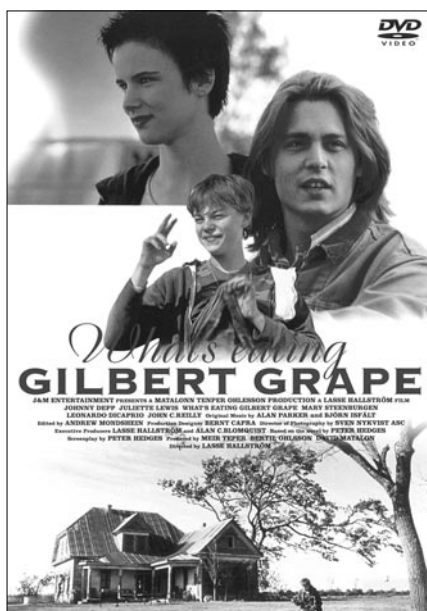
お袋が散歩やダイエットしてくれたら

母は17年前の夫の自殺から過食症を病み、今では体重225キロ。腕の付け根が娘たちのウエストほどで、身体の厚みは息子たちの5倍位。画面から見て、BMI^{*}は90位か。欧米ではBMIが30以上、日本では25以上が肥満とされているが、40以上だと腰や膝が痛み、歩行や身動きが困難になるだけではなく、むくみや息切れな

ど心不全症状を起こす超肥満という病気だ。

母の食事量は日本人の3人分か。ある日の昼食は、卵2個のベーコンエッグ、フライドポテト、ホットケーキ1枚、ジャムたっぷりのトースト。どれもLサイズで脂濃い上に、食後はポテトチップスに煙草、ジュース数杯。この7年間は1度も外出せず、1階の居間のソファで寝起きし、終日、TVを観て過ごすので、ソファの下は床板が沈み込んでいる。

※ BMI：体重を身長²で割った肥満の基準値



©1993 DORSET SQUARE FILM PRODUCTION AND DISTRIBUTION KFT.

提供:東北新社 アスミック・エースエンタテインメント テレビ東京
(廃盤のため、販売は中止されています)

写真:(左上から時計まわりに) ベッキー、ギルバート、弟アーニー

映画「ギルバート・グレイプ」

L・ハルストレム監督、1994年、米国

あの子を取り戻さなくちゃ！

それがあつ時、母が意を決して外出する。町の給水塔に登ってしまった弟がパトカーに連行される事件が起き、家族総出で警察に乗り込んだのだ。車はタイヤがペチャンコになり、大きく傾きながら、やっと走って行く。警察では「息子を返して！病気なのよ」と巨体をゆすってカウンターを叩く。昔は町一番の美女と言われた母が無残に太り、杖を頼りに歩く姿は、人々の好奇的だ。振り返って見る人、写真を撮る人、指差して笑う子供達……。その中で一人、「貴方のママは偉いわ。勇気があるわ」というベッキーの言葉が心強い。

家ごと母を火葬 胸を打つ愛の火

数日後の弟の誕生日パーティー。「ママ、会ってほしい人がある。彼女は町の人々とは違う。ママを傷つけたりはしないよ」。ギルバートからベッキーを紹介された母は、彼女の優しさに癒され、その夜、突然2階の寝室で休むと言い出す。杖と手すりにすがってハーハーと大きい息をしながら階段を上がり、やっとベッドに横になるが、翌朝は息絶えた姿に。

葬儀の相談で、町の人々から母の遺体をクレーンで家から釣り出す案が出る。しかし、ギルバートは「笑い者にさせないぞ」と家ごと母を火葬する。1年後、子供たちは了見の狭いこの町に別れを告げる。姉と妹は別の町へ移り、ベッキーの広い心を学んだギルバートは、弟とともに彼女たちの自由な旅暮らしに合流する。

突然死ではなく肥満死

母の死因は肥満死。超肥満になると、肺は身体中に蓄えられた脂肪で圧迫され、呼吸が弱まり睡眠時無呼吸を発症する。また心臓も、血液を送り切れなくなり心不全になる。従って、階段を上る程度の運動でも心肺の呼吸も循環能力も追いつかず、死亡することもある。

実際、肥満死が珍しくない欧米では、肥満治療として、胃を縮小し過食を抑える手術が年間20万件も行われている。しかし手術をしても、こまめに食べたり、胃を素通りするジュースやスープを大量に飲むなどするとリバウンドする。超肥満は、原因が遺伝子異常ではなく過食や運動不足なので誰でもなり得る。肥満の少ない日本でも他人事と思っではいけない。

監修：東京通信病院 内科部長 ^{みや}宮 ^{ざき}崎 ^{しげる}滋

